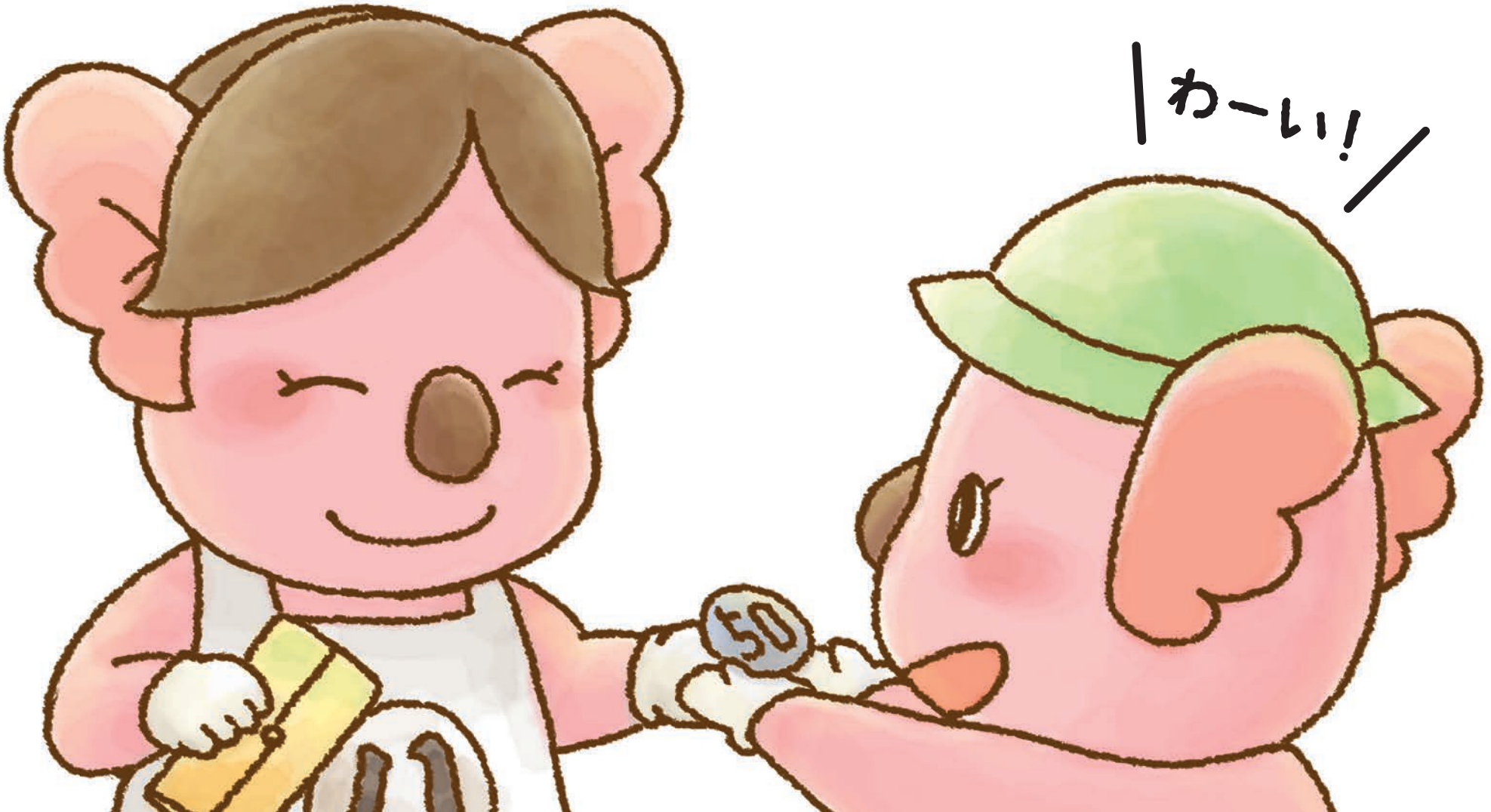
ハッピーとかんがえよう！

おかねのこと

「ハッピー、
おそうじ てつだってくれて ありがとう。
とっても きれいに なったわ。」

「はい、おこづかい。
たいせつに つかってね。」



よる、ハッピーは ベッドに はいって
かんがえました。

おこづかい 50えん もらっちゃった。
おてつだい したから くれたのかな…
じゃあ、おかあさんは だれに おこづかい
もらったんだろう？

つぎのひ、ハッピーは おかあさんに
おつかいを たのまれました。

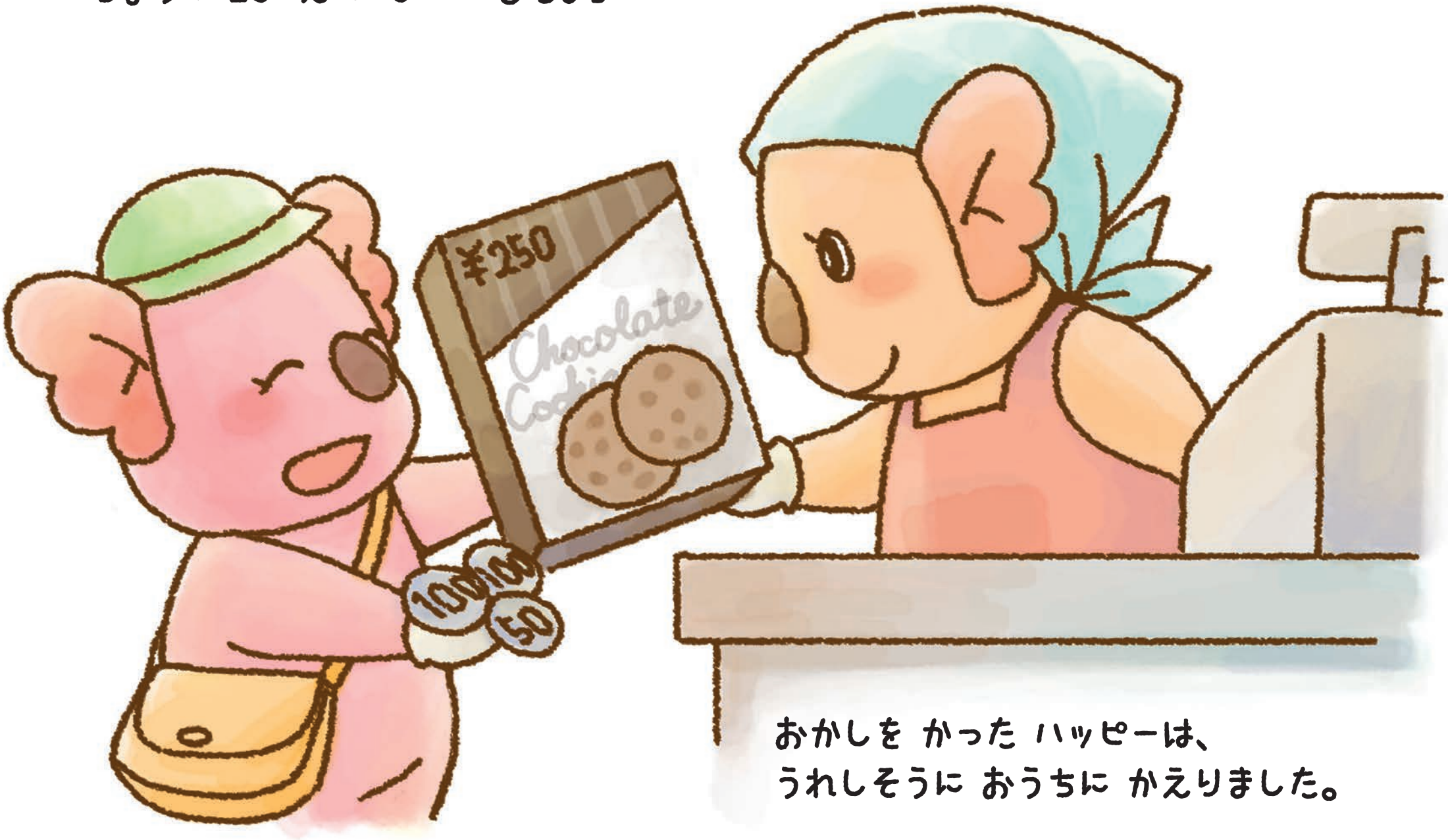
「パンを かってきてね。
はい、２００えん。」

「あ、そうだ。
きのう もらった ５０えんも
もっていこ。」

スーパーには いろいろな ものが あります。
ハッピーが かうものは どこに あるかな？

「あっ、ほしかった おかしが ある！」

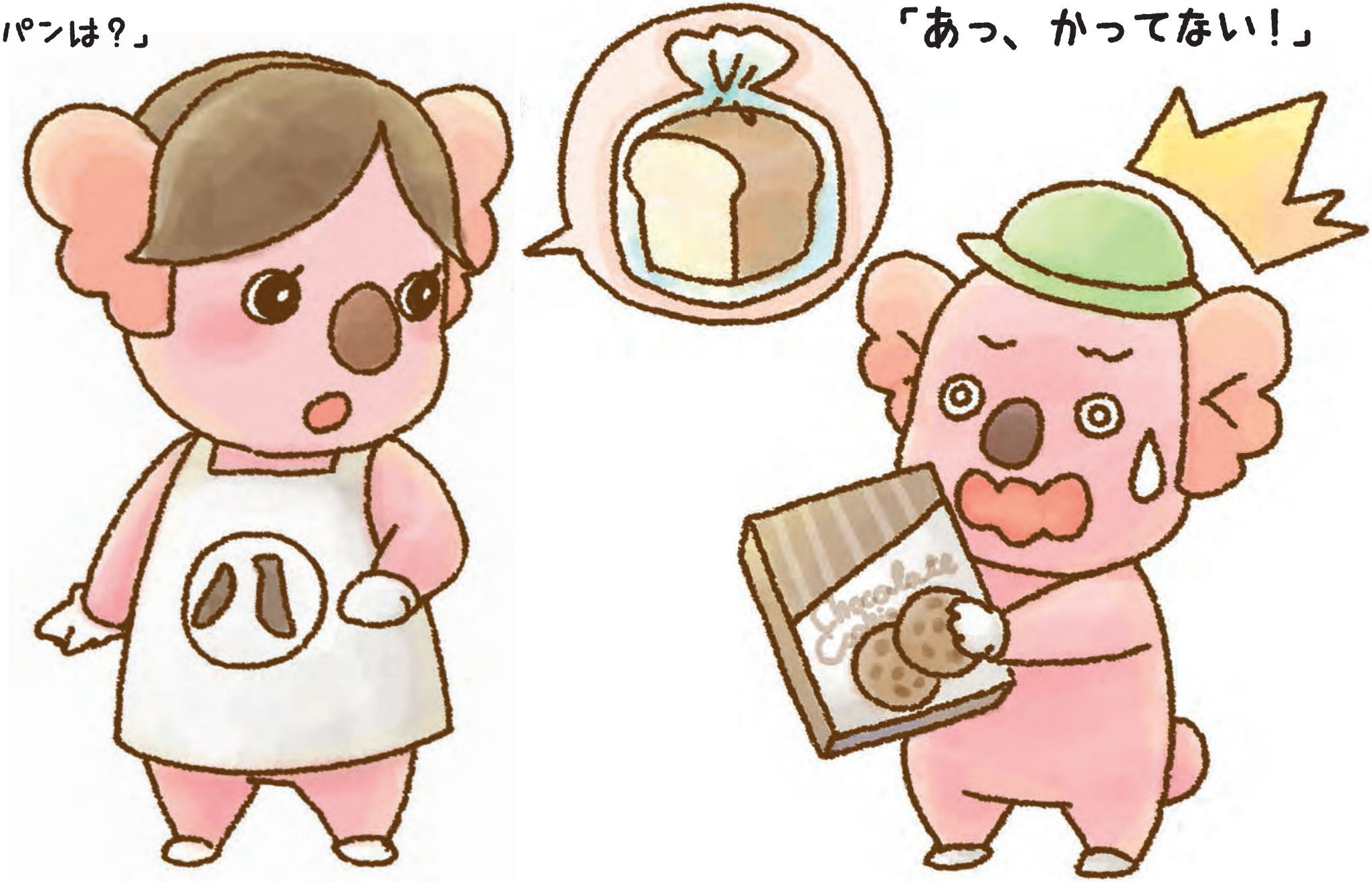
「ちょうど 250えん もって きたよ」



おかしを かった ハッピーは、
うれしそうに おうちに かえりました。

「おかえり！」

「パンは？」



ハッピーと いっしょに かんがえよう！

1. おつかいを たのんだ パンは、あさごはんで たべる パンなんだ。
   パンと おかし、まず、どっちを かわなくちゃ いけないかな?

2. 200えん あずかって、150えんの パンを かったら おつりは いくら? おつりは だれの おかねかな?

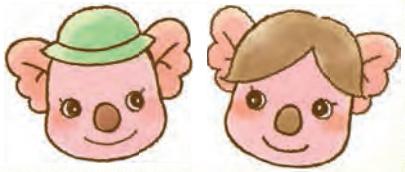
3. ハッピーの おこづかいは 50 えん。
   250えんの おかしを かうには、どうすれば いいと おもう?

おうちのかたへ

生涯にわたって消費者力を身につけることが求められています。学校教育でも消費者教育は行われますが、家庭の日常生活の中で親子一緒に実践しながら身に付けていくことが大切です。

お金を使う時に、この使い方がいいのか考える習慣は、消費者トラブルにあいにくい体質を作ります。おこづかいは、お金の使い方を身につけさせる絶好のツールです。

幼児期からの消費者教育は、生きる力を育みます。生活の中で、少しずつ目標を達成できるよう手助けしましょう。まずは、この絵本でお金について親子で一緒に考えてみませんか。



＜幼児期の目標＞

1 約束やきまりを守ろう。

2 欲しいものと必要なものについて、よく考えよう。

3 目先のことだけではなく、将来のことも考えて、がまんすることを覚えよう。

4 困ったことがあったら、身近な人に相談しよう。

● 一緒に考えるポイント ●

1．まずは一緒に買い物に

お金は、本来生活を豊かにし自分の満足を得るためにあるものです。クレジットカードなど、「見えないお金」も増えていますが、まずは一緒に買い物に行って、お金とものが交換できることを実感させましょう。

2．おこづかいとおてつだい

家事を手伝うことは家族の一員として当然のことです。当然のことをして報酬を得ることに抵抗のある家庭もあると思いますが、人の役に立つから労働が成立し、その対価としてお金がもらえることを学ばせることもできます。

収入は大人が働いて得たものであることを教えるとともに、お手伝いをしたことに感謝の気持ちを伝え、労働としてきちんとやり遂げることを徹底しましょう。

3．ニーズとウォンツ

限られたお金の中では必要なものと欲しいものを区別して使わなければなりません。優先順位を考え、適切にお金を使えることが、満足できる自立生活を送れることに繋がります。

発行：名古屋市市民生活部消費流通課
TEL：052-972-2437
FAX：052-972-4136

監修：平野憲子弁護士（ゆい綜合法律事務所）
作　：公益社団法人全国消費生活相談員協会
イラスト・デザイン：加藤夕季（株式会社東海共同印刷）